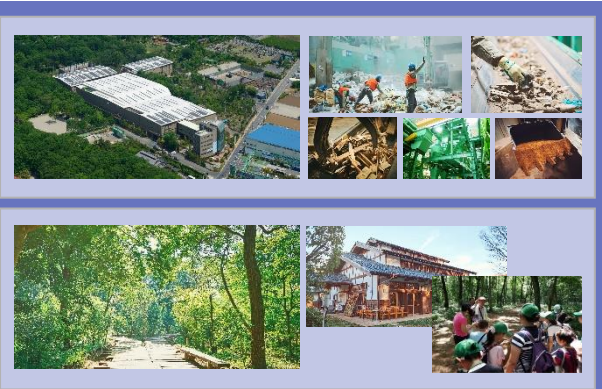




（上）産業廃棄物中間処理事業
（下）ESD（サステナビリティ教育）事業

- 本社所在地：埼玉県入間郡三芳町
- 事業概要：産業廃棄物中間処理事業、ESD（サステナビリティ教育）事業
- 常時使用する従業員：210名（2024年8月期）
- 現在の売上高：67億円（2024年8月期）
- 法人番号：4030001056274
- Web：https://ishizaka-group.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
石坂 典子

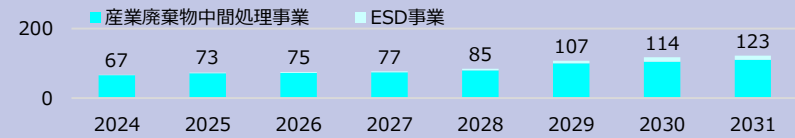
全ての地表資源が循環する「Zero Waste Design」の実現

環境問題の深刻化や資源価格の高騰、エシカル消費の普及を背景に循環型社会への転換が進む中で、石坂産業は全ての地表資源が循環する「Zero Waste Design」の実現に取り組みます。産業廃棄物中間処理事業では新工場建設と各種機械設備・システム導入により生産規模の拡大とリサイクル技術の高度化を果たし、建設系混合廃棄物処理と廃プラスチックリサイクルニーズの増加に対応します。またサステナビリティ意識の醸成を目的に、個人や事業者(企業・学校等)を対象として食・癒し・学びの体験を提供するESD事業では、首都圏エシカル層やインバウンド層、ガストロノミーツーリズム、ペットツーリズムの増加に対応し、足湯、研修施設、Zero Wasteレストランなどのコンテンツ拡充に取り組みます。各事業やグループ企業が一体となり相互にシナジー効果を発揮することで売上高100億円を達成し、サプライチェーンや地域経済のレジリエンス向上、当社従業員への成長機会の提供・賃上げを通じた待遇改善を実現します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2029年の売上高100億円達成に向け、産業廃棄物中間処理事業で年率9%、ESD事業で年率34%の売上成長を目指します。



課題

産業廃棄物中間処理事業の課題

- ・混合廃棄物増加に対応した生産スペース拡充、処理能力向上
- ・廃プラスチックリサイクル需要増加に対応した選別精度向上

ESD（サステナビリティ教育）事業の課題

- ・ウェルネス需要の増加に対応した食・癒しコンテンツの開発
- ・サステナビリティ教育需要増加に対応した学びの場の提供

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

産業廃棄物中間処理事業の成長手段

- ・工場新設・再編によるキャパシティ向上
- ・省力化設備・システム導入による処理能力向上

ESD（サステナビリティ教育）事業の成長手段

- ・再生資材を使用した建築物における循環体験の提供
- ・自社/地域農園、自然界の食材による季節感溢れる料理提供
- ・里山・雑木林の逆開発による癒し空間提供（足湯ほか）
- ・学びを通じて人材・繋がり循環を促す研修施設の増設

実施体制

- ・代表取締役 石坂をプロジェクトオーナー、営業、生産、財務、人事、デジタル各部門の責任者をコアメンバーとするプロジェクトチームの結成
- ・ISO7種統合マネジメントによるPDCAサイクルの実践
- ・ERPと生産システム（産業廃棄物中間処理）、入場管理システム連携による情報一元化と意思決定の迅速化
- ・省力化設備導入に伴う高付加価値業務への人材再配置
- ・高度外国人材活用による採用マーケット拡大と海外進出準備